2021 年 6 月 4 日

ジェトロ・メキシコ

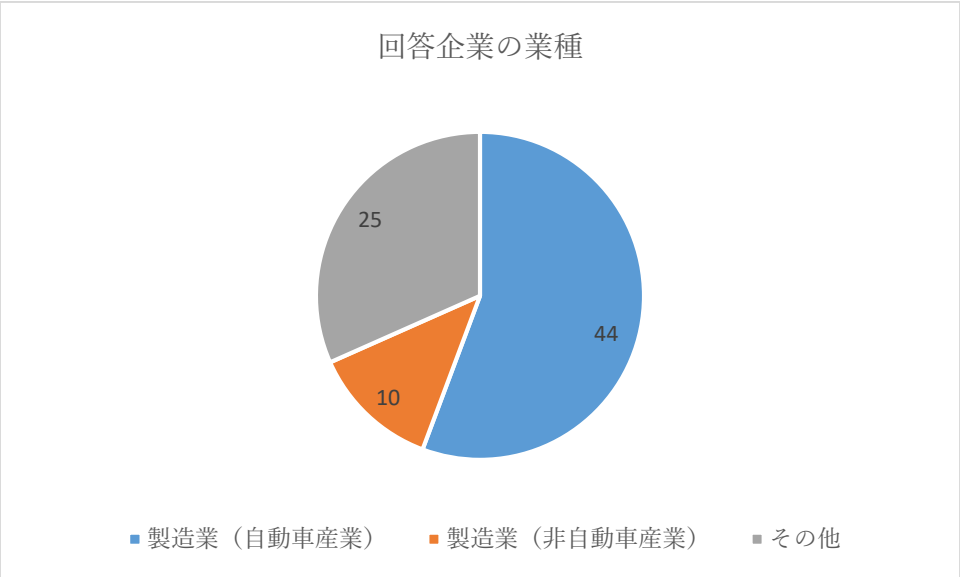
新型コロナウイルス感染拡大によるサプライチェーンへの影響について

在メキシコ日系企業アンケート結果

調査実施期間：2021 年 5 月 14 日（金）～5 月 26 日（水）
回答企業数：79 社

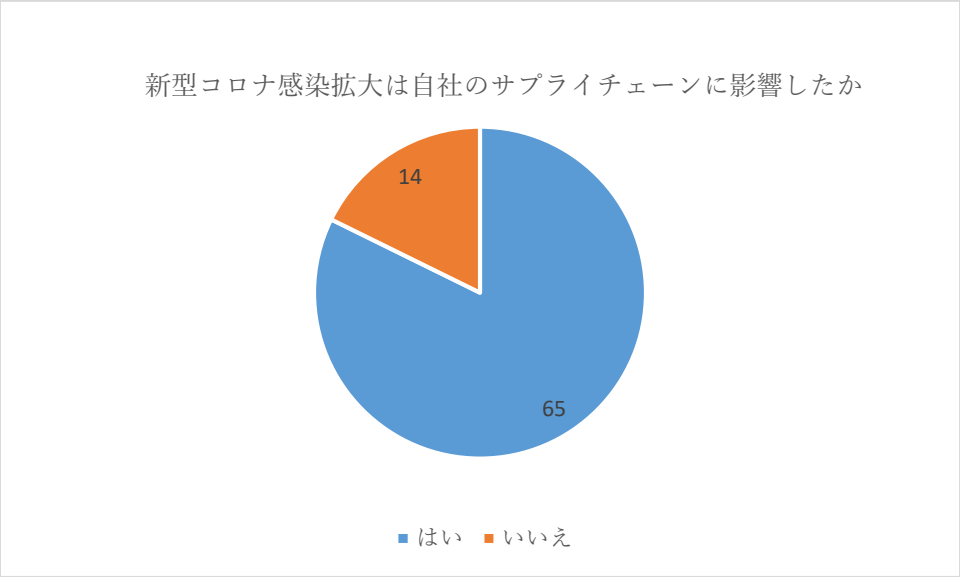
０．回答企業概要

回答企業数は 79 社、内訳は「製造業（自動車産業）」が 44 社（55.7%）、「製造業（非自動車産業）」が 10 社（12.6%）、「その他」が 25 社（31.6%）だった。「その他」の内訳は、商社（7 社）、運輸・倉庫業（5 社）、卸売業（2 社）、輸出入販売業（2 社）、サービス業（1 社）等。



１．新型コロナウイルス感染拡大のサプライチェーンへの影響

新型コロナウイルス感染拡大が自社のサプライチェーンに影響を与えたかについては、8 割強の企業が「影響した」と回答した。具体的な影響としては、2020 年 3 月の「衛生上の緊急事態宣言」により工場の操業を停止せざるを得なかったこと、取引先からの需要減によって生産を停止したなどの、「工場の操業停止」が最も多く挙げられた（18 件）。生産の一時停止が発生し納入先の需要が減少したことで、販売減・売り上げ減少へとつながった企業もある（11 件）。また、海上輸送がひっ迫したことによるコンテナ等輸送費の上昇（8 件）や、物流の滞留・遅延にも多くの企業が苦しめられた（14 件）。なかには、港湾の混雑によるリードタイムが 2 倍に伸びたケースや、通常は船便で調達していた原材料を航空便に切り替えたことでコスト増となったケースもあった。メキシコ国外からの輸入調達について「困難を極めている」と表現した企業もあり、物流コスト増により取引先と厳しい販売価格交渉をせざるを得ないとしたコメントもあった。また、新型コロナ感染状況に応じて需要が急減、急増したことや物流の停滞により在庫管理が難しくなったことも操業に影響を与えた。感染状況が改善した後も、感染防止対策などの操業規制により、工場内に配置できる人員が減少したことや、出勤できる人員が限られたことなどから、回答企業のうち 5 社が生産能力低下や業務効率に影響が出ているとした。



具体的な影響（自由記述式）

- 工場の操業停止および生産減少（19 件）
  「政府規制による自社を含め顧客工場が操業停止、操業再開後も各社が保有する適正在庫水準を調整するため、受注の急減・急増が起こり、材料手配に関する物流も混乱した」

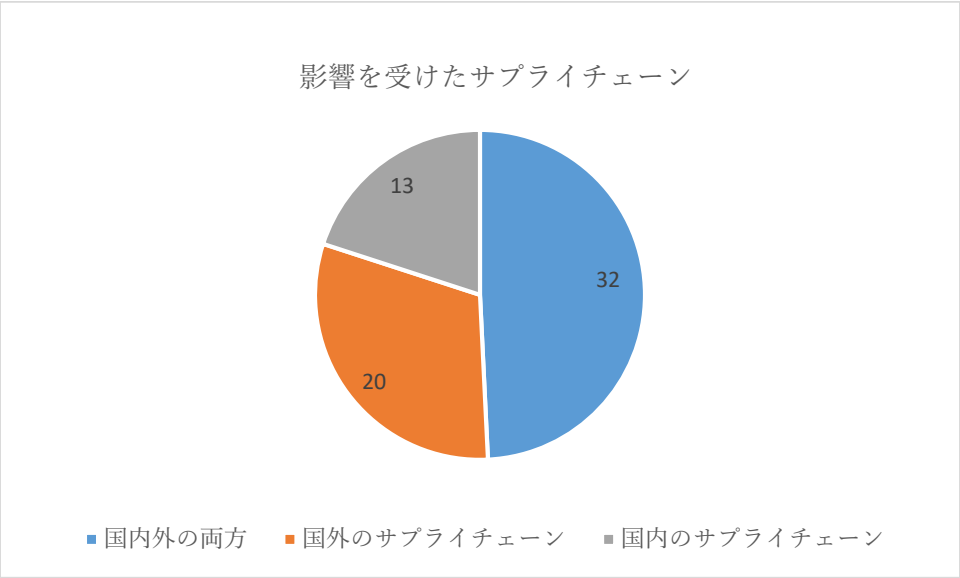
- 販売減（11 件）
  「製造元の減産や生産調整、海上運賃の上昇により、客先との交渉は非常に厳しくなった。結果的に客先への納入数量は減少し、客先及び弊社の在庫水準が非常に低水準となった」

- 物流コストの増加（8 件）
  「海外からの輸入部分ではコロナ禍によるコンテナ輸送費高騰、デリバリー困難が発生し困難を極めている。また国内でもサプライヤーより価格値上げ交渉を受けている」

- 物流の停滞、混乱（14 件）
- 在庫管理への影響（戦略的備蓄の実施や、在庫の急減等）（3 件）
- 操業規制（工場内の感染対策等）による生産能力等の低下（5 件）
- マーケティング・プロモーション活動や新規プロジェクトの停滞（2 件）

２．影響を受けたサプライチェーンの範囲について

サプライチェーンに影響があったとした企業のうち、約半数が国外、国内の両方のサプライチェーンに影響があったとした。また、3 割が国外のサプライチェーンのみ、2 割がメキシコ国内のサプライチェーンのみに影響があったと回答した。



- 国内外の両方のサプライチェーンに影響があった（自由記述式）

原材料の供給遅延等（5 件）

「原材料が入手困難になった」

「原材料の輸入について、コンテナ不足でリードタイムが長期化した」

「通常はコンテナ輸送していた原料を航空便で購入したためコストが増加した。また、在庫潤沢時には必要とされていなかった非常に細かな生産進捗管理、生産数・在庫数を日ごとに細かく確認する作業が不可欠となり、業務工数が増加した」

物流コストの上昇、遅延（9 件）

「日本・中国・韓国からのコンテナ遅延、国内では輸送トラック不足による納品遅れ」

「納期遅延回避のため特別輸送が複数回発生し、また材料価格も 30%上昇した」

「コンテナ輸送価格の高騰、港湾混雑による輸入スケジュールの遅れ」

「ロサンゼルス港の港湾作業者間で新型コロナ感染が拡大したことで配達が大幅遅延した。工場の操業停止、また、操業再開後のオペレーションロスコストの発生。物流遅延に伴うロスコストの発生。」

納期の遅延（3 件）

「多くのサプライヤーの供給が遅れた。リードタイムの長期化により、生産計画が混乱した」
「米国とメキシコ国内サプライヤーからの供給量の低下」

販売減（3 件）
「国内外の客先が操業を停止した」
「受注数量が２５万個減少した」

その他
「製品材料の日系材料加工メーカがメキシコ事業から撤退」
「工場立上げ中であったため、稼働開始の遅延」

- 国外のサプライチェーンのみ影響があった（自由記述式）

物流の遅延と混乱（3 件）
「中国からの海上輸送品が、港湾の混雑により出荷遅延。日本のサプライヤ生産能力に問題」

輸送コストの上昇（8 件）
「中国からの輸入が納入遅延およびコンテナ価格高騰でコスト増になった。
輸入する際に、通常よりも日数が掛かり、航空便に切り替えている場合がある」
「海上輸送コンテナ船のスペース不足による納期遅延」
「日本からの材料調達において納期に間に合わせるため船便から航空便へと変更を要した」

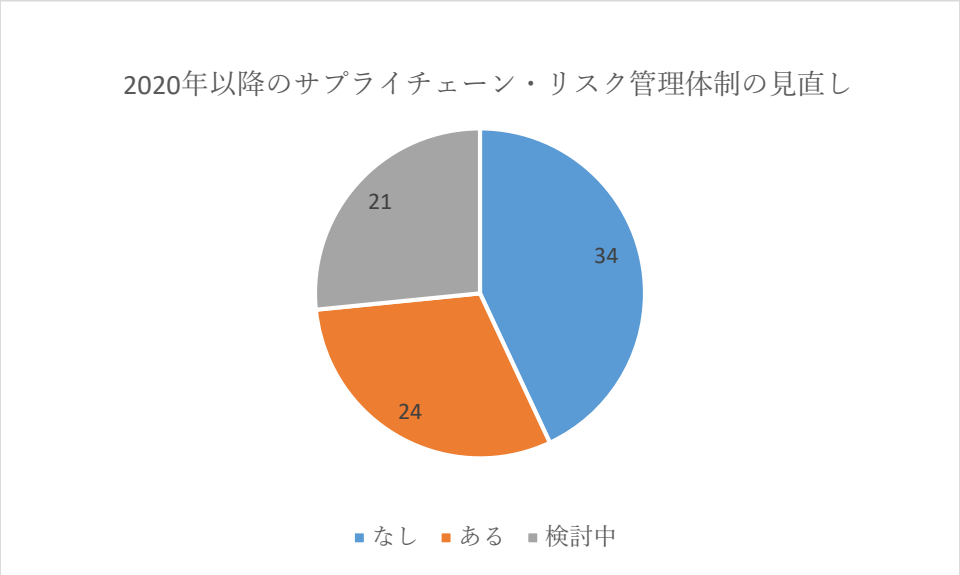
その他
「米国産牛肉の品薄」
「機器、資材の納期遅延により、プラント全体の建設工事の日程に遅れが出た」
「顧客の急激な需要増に伴う部品調達の遅延」
「マンサニージョ港の関税区分変更に伴うシステムトラブル」
「生産調整により注文数が激減した。在庫量が増加し、製品によっては使用期限切れが起こった」

「中国での作業要員不足は、メキシコでの在庫不足をもたらし、供給不安が発生。米国での作業要員不足は、元々メキシコから出荷していた製品の米国での組み付けを困難にし、製造・組み付けを同時に実施できる日本からの製品供給に切り替えた」

- 国内のサプライチェーンのみ影響があった（自由記述式）
  「原材料の納入遅延」
  「年間生産台数半減」
  「最終需要家の減産や停止により、弊社納入先もその影響を受けた」
  「輸入品は継続して購入を続けたが、メキシコ国内での出荷が出来ず、在庫ばかりが増加するという事態になった」

３．サプライチェーンの方針やリスク管理体制の見直しについて

「2020 年以降、貴社のサプライチェーンの方針やリスク管理体制の見直しはありますか」という問いに対して、「なし」と答えた企業が 34 社で最も多く全体の 43.0%を占めた。「ある」と回答した企業は 24 社（30.4%）で、見直し内容については調達部品の在庫積み増し等の「在庫管理の強化」（11 件）や、物流の状況変化に対応した「発注等リードタイムの見直し」（4 件）、現地調達化を含む「調達先の見直し」（4 件）などが挙がった。その他、21 社（26.6%）は「検討中」と回答した。



- 見直し内容（自由記述式）

  在庫管理の強化（11 件）

  「コロナ前は在庫のスリム化に取り組み始めていた。キャッシュフロー改善の観点である。しかし、コロナスタート後は『在庫を戦略的に持つことが重要』と考えを改めて在庫増に取り組んでいる。社内コロナ感染者数増による生産オペレーションへの影響リスク、原材料サプライヤーからの供給遅れリスク、生産設備トラブル発生時の業者の対応の遅さにより生産数が減るリスクが存在しているからである」

  発注等リードタイムの見直し（4 件）

  「納期対応の為に発注リードタイムが一カ月追加となった」

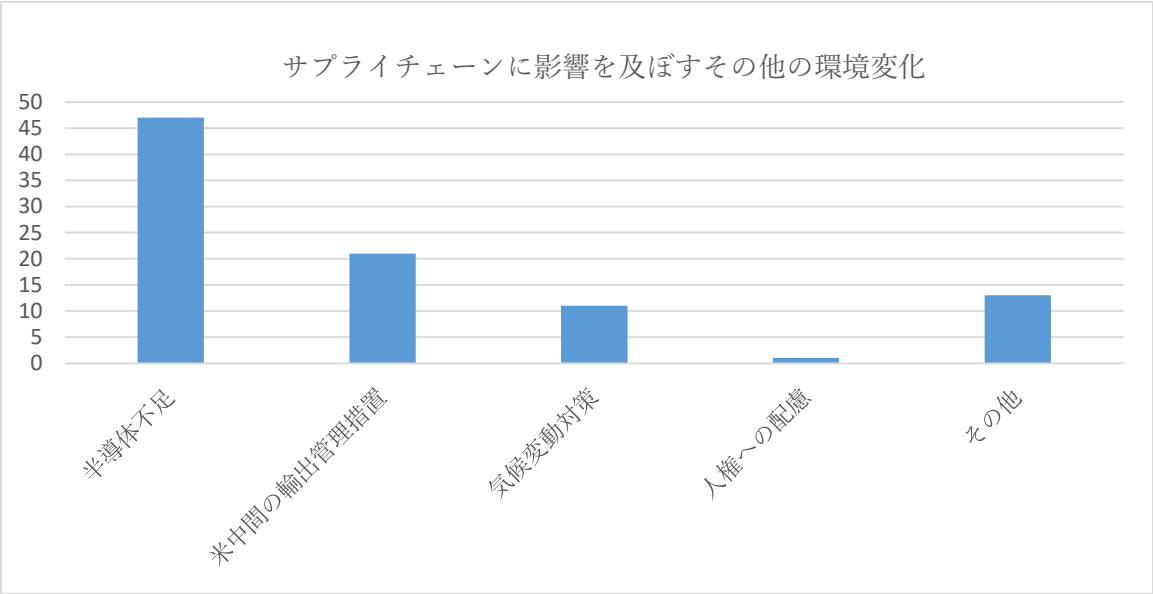
  調達先の見直し（4 件）

  「以前より検討している現調化について、コロナ禍も背景に一層取り組みたいと考え始めた」

  「原材料の購入先を広範囲に求めるようになった」

４．サプライチェーンに影響を及ぼすその他の環境変化

新型コロナ感染拡大以外に、サプライチェーンに影響を及ぼす環境変化についての設問（複数選択式）では、新型コロナ感染拡大により需要が急増し世界的に供給が滞っている「半導体不足」を挙げた企業が特に多かった（47 件）。続いて、「米中間の輸出管理措置」（21 件）、「その他」（13 件）、「気候変動対策」（11 件）と続いた。「その他」の具体的な内容は、「労働法改正（人材派遣の原則禁止）」、米国南部を襲った寒波などに起因する「樹脂材の不足」、「米国・メキシコ・カナダ協定（USMCA）の原産地規則厳格化」などが挙げられた。



5．新型コロナ感染拡大のサプライチェーンに与えた影響に関するコメントや、今後ジェトロに期待するサービス等（自由記述式）

- 「アジアにおいても、欧州においても輸送用コンテナを確保するのが困難になっている」
- 「樹脂不足によるメキシコ国内での販促活動の鈍化」
- 「政府規制による稼働停止で売上げが無いなか、給与負担によって収支が悪化したが政府からの補償は無い。また、輸入の物流費が大幅アップしたことや、今年は半導体不足によって受注が大きく減少して、さらに収支が悪化している」
- 「海上運賃の大幅な上昇が経営を圧迫。さらにロサンゼルス港の緩和も目処が無く非常に厳しい。半導体不足も深刻な状況で、操業開始以来の厳しい状況となっている」
- 「リーンオペレーションの見直しが必要。コロナ前の事業環境の条件で実現を目指していた軽い・早いオペレーションは過去の話と実感している。今はコロナの事業環境で、リスクに備えながら、必要なコスト・時間をかけて事業継続を優先に考える状況にある。今の自分の時間の半分以上をサプライチェーンをマイクロマネジメントで把握・理解することに使っている。コロナの不確定要素がサプライチェーンのこれまでの結果オーライの脆弱さをあぶりだしたと考えている。社

員には、大変だが自分たちの能力を研ぎ澄ませることが出来る機会なので頑張って乗り切ろうと伝えている」

以上